

日本人大学生英語学習者の文学的物語教材読解時のつまずき

誤答分析を通して

西原貴之

本研究の目的と背景

文学教材の外国語教育における効果に関して、言語習得を促す、異文化に触れさせる、意味構築プロセスを意識・理解させるなど、様々な主張がなされてきた (Lazar, 2016)。しかし、実際に文学教材を使って授業をしてみると、学習者は内容理解において様々な問題に直面しているように思われ (西原, 2020)、主張されている効果の享受はおろか、教材自体の消化不良を引き起こしている可能性もある。主張されている効果を楽しみながら学習者にその教材を深く理解させ、かつ楽しませるためには、学習者のつまずきの把握は不可欠であると言える。本研究は、日本人大学生英語学習者の文学的物語教材読解時のつまずきを、内容理解に関する設問への誤答を通して明らかにすることを目的とする。

分析の枠組み

残念ながら、文学的物語教材読解時の困難点を整理した枠組みはまだ構築されていない。そこで、本研究では、文学的物語教材読解と関わると思われる 2 つの枠組みを援用する形で調査を行う (各枠組みの詳細は紙面の都合上本稿では省略する)。

1 つ目の枠組みは、外国語学習者の英語読解時一般のつまずきを整理した Devoudi & Yousefi (2015) である。Devoudi & Yousefi (2015) は、外国語として英語を学ぶ学習者の読解に関する実証研究を包括的にレビューし、英語読解時に学習者につまずきを引き起こす要因を整理した。本論文は文学的物語教材内で学習者がどのような点につまづくのか調査することに関心があるため、この枠組みに含まれる項目のうち、言語やテキストと関わる要因を取り上げる ((1) vocabulary knowledge deficits, (2) grammatical knowledge deficits, (3) background knowledge deficits, (4) obscure, abstract vocabulary)。

2 つ目の枠組みは、文学批評家が解釈が難しいと考えてきた英語詩に含まれる言語的特徴を整理した Castiglione (2017) の枠組みである。モダニズム作品を中心としつつも、様々な流れの作品に対して文体分析を行うことで整理されたもので、文学的物語文をベースに作成した疑似的な詩についても応用可能であることが示されている (この枠組みに含まれている言語的特徴を伴うと、疑似的な詩であっても読者に難しいと判断される)。文字から談話まで様々な言語レベルの特徴が含まれている。行またがりなどもつばら詩に関わるものも含まれてはいるが、多くは文学的物語文でも観察される特徴である (現に *narrativity* という特徴が含まれている)。この枠組みに挙がっている特徴を削除するとその詩が読みやすくなることが実証的に示されている (Castiglione, 2019)。この枠組みは合計 20 の言語的特徴から構成されている。

なお、これら 2 つの枠組みはお互いに独立しているわけではない。抽象的な語彙などをはじめとして、共通した特徴を備えている。ただし、Devoudi & Yousefi (2015) は、テキスト読解の基本的な事柄 (話の流れや代名詞の指示内容の理解など) に関わるもので、外国語学習者固有のつまずき (英語母語話者はつまずかない事柄) を扱う。それに対して、Castiglione (2017) の枠組みは、作品解釈を深めるための言語的特徴に関わるもので、英語母語話者でもつまずく特徴を扱う (実際に母語話者が読解時に困難を感じる事が報告されている (McCarthy, 2015))。

調査方法

調査参加者は英語で文学的物語教材を読む選択科目 (本稿著者が授業者) を履修中の大学 2 年生日本人英語学習者 22 名 (男性 2 名、女性 20 名) である。全員が英語で文学作品を読む能力を向上させることに何らかの形で関心がある。主に人文学系分野に関心がある集団で、TOEIC のスコアは 190 点から 770 点 (平均 446.82 点、標準偏差 129.18) であった。英語文学を読んだ経験はほとんどなく、さらに文学研究に関する専門的知識も持っていない。授業の一環として行った読解活動のパフォーマンスを研究に使用する許可は書面にて得た。

調査材料は、細川・シンドラー (編) (2011) に含まれる 5 つの英語短編小説のうち、“Sredni Vashtar” (Hector H. Munro (Saki) 作)、“The Canterville Ghost” (Oscar Wilde 作)、“On the Brighton Road” (Richard Middleton 作)、の 3 作品である。いずれの短編小説も 2~3 チャプターに分けられ、英語中級レベルの日本人大学生英語学習者用に改作が行われている。授業に先立ってこれらの作品を読んだことがある調査参加者はいなかった。

設問作成プロセスは以下の通りである。まず、上記 3 作品をすでに示した 2 つの枠組みに基づいて分析し、調

査参加者の英語力も加味しつつ、学習者がつまずくと予想される箇所（または具体的な表現）を抽出した。次に、抽出した箇所に関する設問を本稿著者自身が作成（計 61 問）した。ただし、1 つの箇所に複数の特徴が関わっているケースも見られたため、1 つの設問に対して同じ枠組みの中の異なる特徴や、2 つの枠組みの特徴が関係している設問もある（学習者にあまりなじみのない語が複雑な文法構造や新奇的な比喻に用いられている場合など）。設問の問題文はいずれも極力シンプルな英語で作成した。同時に、各短編小説の基本的なストーリー展開などに関する設問も作成した（計 57 問）。このタイプの設問は、(1) 学習者の注意を作品に引き付け続ける、(2) 学習者が各作品の基本的な内容を理解しているかどうかを教師が確認する、ということを狙ったものである。

新しいチャプターに入った際、そのチャプターの設問をまとめたワークシートを学習者に配布した。学習者は個人でテキストを読み、ワークシートの中の設問に解答した。学習者は制限時間のある状況で極力多くの設問に答えるように指示された。辞書はいつでも制限なく使用可能とした。なお、解答言語は日本語と英語どちらでもよいとしたが、全員が日本語を選択した。

解答後は調査参加者はペアになり、自身の解答についてお互いに確認または意見交換した。その後、クラス全体で学習者の解答を共有しながら答え合わせを行った。答え合わせ後には、学習者は自身が最初に書いた解答を自分で添削（最初に書いた解答は消さないように事前に学習者に指示）した。そして、授業の各回の最後にすべての学習者からワークシートを回収した。念のため、回収した学習者の解答及び彼らの自己添削について本稿の著者がダブルチェックを行った。そして、半分近くの学習者が自身の最初の解答が誤りだったと評価した設問（当初無回答だったものも含む）を抽出し、学習者がどのような言語的特徴に対してつまずきを引き起こしたのかカテゴリー化を行った。

調査結果

発問を作成した箇所（2 つの枠組みを用いた分析により学習者がつまずくと予想された箇所）では実際に多くの学習者がつまずきを示した。Davoudi and Yousefi (2015) の枠組みに関わるものと Castiglione (2017) の枠組みに関わるものそれぞれで 3 タイプのつまずきが観察された（詳細は後述）。学習者がつまずくと予想された箇所に対する設問への学習者の正答率（学習者の自己評価）は無回答分も含めて平均で 49.6%であり、各設問に関して半分以上の学習者が自身の当初の解答が不適切であると考えていた。それに対して、各文学的物語教材の基本的なストーリー展開などに関する設問への学習者の正答率（学習者の自己評価）は平均で 86.7%であり、各作品に関して学習者は基本的な意味理解はできたものと推測される。この 2 つの設問タイプの正答率の違いは、「何となく話の流れは分かったものの、いまいちよくわからなかった」という学習者の感覚を反映しているのかもしれない。以下では、各タイプのつまずきに関して 1 例ずつ例示し、その内容を説明する。また、各例には「●/○：◎%」という表記が示されている。これは「この設問が含まれているワークシートを提出した○人中の●人のみが自身の当初解答が正解であると判断しており、その割合は◎%であった」という結果を示している。

(1) Davoudi and Yousefi (2015) の枠組みと関わるもの：外国語としての英語読解時一般のつまずき

①学習者の語彙力不足によるつまずきの例（“On the Brighton Road”より）

Slowly the sun had climbed up the hard white hills, till it broke upon a sparkling world of snow. (p. 28)

Q: What is the meaning of “it broke upon a sparkling world of snow”? (1/21: 4.8%)

「太陽が昇った」、「太陽が雪を溶かした」といった解答の他に、“it” が指す内容も理解できなかった学習者がいた。また、無回答も多かった。全員が雪を見たことがあり、かつ学習者にとって語彙は簡単であったが、この表現の意味内容を捉えることができなかった。この例に関しては、学習者の語彙知識の深さが不十分で、自身の知識を応用できなかった可能性がある。

②学習者の文法知識不足によるつまずきの例（“The Canterville Ghost”より）

At the door of the house, an old woman in black with a white apron was waiting for them [the Otis's]. (p. 13)

Q: Describe the old woman's clothes here. (11/19: 57.9%)

エプロンを身に付けていることは答えることができていたが、“in black” という句を理解できなかった学習者が多かった。結果として、女性の服装に関する理解が不完全なものとなっているようであった。

③学習者の文化知識不足によるつまずきの例（“The Canterville Ghost”より）

Sir Simon: “...I want to go to sleep, but I can't.”

Virginia: “Oh, that's ridiculous. Why not? I can easily fall into sleep, especially in church on Sundays.” (p. 23)

Q: Why do you think Virginia can easily fall into sleep, especially in church on Sundays? (9/22: 40.9%)

ここでは幽霊の Sir Simon が魂の救済を求めている旨の発言をしている。それに対して人間の Virginia は “sleep” という語を文字通りに捉えた上で応答している。Virginia のこの発言の含意を問う設問であったが、誤解している解答が多かった（「彼女は疲れているから」、「彼女は神を信じているから」、「彼女は人間であり神ではないから」など）。日曜学校やキリスト教の風習に関する知識が不足しており、内容理解が妨げられたと考えられる。

(2) Castiglione (2017) の枠組みと関わるもの：詩の難しさと関わるつまずき

④語り手や登場人物の主観が隠されている箇所につまずいている例 (“Sredni Vashtar” より)

Time went slowly—very slowly. One minute, two minutes, three minutes... but it went. He tried to count the birds in the garden. They were flying from tree to tree. One, two, three, four... and he counted them again. (p. 8)

Q: What are Conradin's feelings in this description? (6/21: 28.6%)

大切なフェレットが捕まえられて捨てられそうになっている状況を少年 Conradin が遠く離れた部屋の窓から見ている場面である。Conradin は固唾を呑んでその成り行きを見ていると思われる。多くの学習者がこの設問には無解答で、作成された解答も「驚き」、「人生をあきらめている気持ち」といった的外したものであった。この描写から Conradin の気持ちを読み取ることはできなかったようであった。

⑤文のつながりが明示的に示されていない箇所につまずいている例 (“On the Brighton Road” より)

There had been hard frost during the night. The birds hopped about here and there for scant food. They hardly left their traces on the silver ground. (p. 28)

Q: Why did the birds hardly leave their traces on the ground? (4/21: 19.0%)

ここでは地面が霜で堅くなっていたために足跡が残らなかったと述べられているが、「他の鳥に場所を知らせるため」、「食べ物を見つけられなかったから」、「大雪が続いて足跡が消されたから」といった解答を提示している学習者が見られた。文間の意味内容を自身で結びつけることができなかったようであった。

⑥文彩表現につまずいている例 (“Sredni Vashtar” より)

He stretched his limbs. Then he rose carefully to his feet and shook the snow off his body. As he did so the wind set him shivering. He knew his bed had been warm. (p. 28)

Q: What does “his bed” refer to? (8/21: 38.1%)

浮浪者が雪の中で寝ていた状態から目覚めてこれから歩き出そうとしている場面である。“his bed” はここでは先ほどまで浮浪者が寝ていた雪を指すと考えられるが、多くの学習者はこの表現が比喩であることに気づくことができず、浮浪者の自宅のベッドを指していると考えていた。

まとめと今後の課題

本研究で利用した 2 つの枠組みは、日本人英語学習者の文学的物語教材読解時のつまずきをよく予測することができた。しかし、これらの枠組みはもともと文学的物語文の困難点そのものを扱うものではないため、文学的物語文にとっては重要な語法や語り手の視点に関する要素が含まれておらず、結果として本研究でも取り上げることができていない。私たちは、様々な知見を活用して、英語学習者が文学的物語教材を英語で読む際のつまずきそのものを扱う枠組みの開発を目指す必要がある。文学的物語教材読解における学習者の誤答分析は、学習者に深い読みと文学の強い楽しみをもたらす授業デザインに有用なヒントをもたらすことが期待される。

引用文献

- Castiglione, D. (2017). Difficult poetry processing: Reading times and the narrativity hypothesis. *Language and Literature*, 26, 99–121. doi: 10.1177/0963947017704726
- Castiglione, D. (2019). *Difficulty in poetry: A stylistic model*. Cham, Switzerland: Palgrave Macmillan.
- Davoudi, M., & Yousefi, D. (2015). Comprehension breakdown: A review of research on EFL learners' reading difficulty and problems. *International Journal of Language and Applied Linguistics*, 1, 58–72.
- Lazar, G. (2016). Literature and language teaching. In R. H. Jones (Ed.), *The Routledge handbook of language and creativity* (pp. 468–482). London: Routledge.
- McCarthy, K. S. (2015). Reading beyond the lines: A critical review of cognitive approaches to literary interpretation and comprehension. *Scientific Study of Literature*, 5, 99–128. doi: 10.1075/ssol.5.1.05mcc
- 西原貴之 (2020) 「日本人大学生英語学習者の文学作品読解時のつまずき」『JAILA Journal』6, 26–37.
- 細川祐子・E. シンドラー (編) (2011) 『愛と恐怖の物語』開文社.